

～ 小さい人にも自分の世界、価値観がある ～

子ども達と一緒に絵の具を水に溶き、そのまま画用紙と筆、絵の具が置いてある場所に誘いました。みんな興味津々です。何をやるかの指示はありません。自然に興味のおもむくままに始めました。

すぐに絵の具を全部混ぜて、容器から移し替え始める人がいます。青にこだわり、紙に塗り、手に付いた青に気付き嬉しそうに見せる人。画面に広がる色、混ざる色を見つめている人。絵の具に手を浸し、足に塗り、何かを感じている人。いろいろです。

途中から色のついた澱粉のりを出すとすぐに触り、日常では体験しない感触を感じています。触れない人も興味を持って様子を見ています。手の平に付けてあげると、何とも言えない表情で微笑み、手に塗りはじめます。少し水を足すと、感触が変化することも感じているようです。

没頭して遊ぶ眼差しは真剣です。自分の感覚にグッと入っていききました。そして感触、色、水…興味ある事は1人ひとり違いました。

今日は大人の声掛けを控えめにしたことで、自分の世界に没頭していったのかもしれない。

大人の心にも余裕ができ、
< 真剣な眼差しで何を感じている？ > と想像しながら、見守る事ができ
< 次はどうするかな？ > 子どもの行動を、楽しみに見守る事ができました。
子ども達は見守る眼差しを感じ、大胆にやりたい事に集中していききました。

何かをやらせようとするのではなく
< これであなたはどうしたい？ > と見守ってみる。
子ども達はそれぞれの感性で、素材に手を伸ばしていくでしょう。

< ○○していい？ > < 何が欲しい？ >
些細な事も本人に確認する。問われれば自分はどうしたいか、考えるでしょう。
そして、一人ひとりの感じる心、価値観を尊重し、受け止めていく事が、
自分なりの感性、主体的に自分を生きる根っこを育てるはずです。

画用紙には、その子が何に心を動かし、何に手を伸ばしたか。
その痕跡が、生き生きと表現されています。

